

1982年徳島大学医学部卒業、九州大学医学部第一外科入局。  
米シンシナティ小児病院、野口病院副院長、やましたクリニック  
(現:やました甲状腺病院)院長を経て、2012年から現職。

意識改革をうながしているところだ。

るでしょう。

— 甲状腺疾患の治療における課題は。

甲状腺の薬は、毎日飲み続けることが肝心です。私は、患者さんに対して、「もし服薬を止めるといろいろの不調が出てくるよ」と、具体的な症状も交えて伝えていきます。

しかし、認知症などで自己管理が難しくなると忘れてしまう。甲状腺治療のホルモン薬は、飲み忘れてもすぐに大きな影響が現れず、じわじわと悪化するので気づきにくいのです。「何となく体調がすぐれない日が続いているな」と感じて再び受診される方も多いですね。

慢性疾患のため、90日処方方が適用されているのも自己管理が難しい要因です。3カ月に一度の来院だと、医師側としても把握するのは非常に難しい。血圧のようには2、3週間おきに受診していただけるといいのですが、そうすると受診料などが上乗せになり、結果的に患者さんの金銭的負担が大きくなってしまうのです。

解決策としては、厚生労働省が推進しているように、薬剤師の「かかりつけ」を決めておくことがベストだと思っています。複数の病院で処方されている薬を把握してもらおうことで、飲み合わせや副作用の相談もできずし、残薬解消にもつなが

— 今後の展望について。

現状、当院のような専門施設にかららず、適切な治療を受けられないケースが多く見られます。

特に若年層のバセドウ病の初期治療は、専門医に任せたい方が絶対的に多い。将来、妊娠を希望しているかどうかによって、手術か内服かなど治療方針は変わりますし、薬の量や副作用も調節しながら経過を診なければいけません。

汗をかき、脈が速くなる、目が出るといったバセドウ病の症状が少しでも見られた場合は、すぐに専門医を受診していただきたいですね。

せっかくこのような専門病院をつくったわけですから、もつと甲状腺疾患治療を発展させたい。そして、福岡における甲状腺疾患の中核にならなければいけないと、半ば使命感に駆られています。

甲状腺、副甲状腺疾患の内科的・外科的治療を担うやました甲状腺病院。35床に増床し、クリニックから病院に移行して2年。手術件数は年間1千例に迫り、甲状腺専門病院として、全国有数の実績を積み重ねている。

— 甲状腺疾患の近年の傾向と、貴院での取り組みを。

患者さんの7割が他院からの紹介です。最近では、不妊治療専門クリニックからの紹介でいらっしゃる方が増加。晩婚化が進み、不妊治療を行う人が増えたことが一因でしょう。甲状腺疾

患の罹患(りかん)率そのものが高くなったのではなく、検診などで見つかりやすい状況になっているのだと思います。

橋本病やバセドウ病などは遺伝的要素が強い病気なので、お母さんが娘さんを連れてこられる場合もあります。

当院では、手術、化学療法、放射線治療、服薬治療とあらゆる手段が選択できます。手術に関しては全国でも有数の症例数で、甲状腺専門病院の筆頭であると自負しています。

現在、医師数は8人。常勤の外科医が5人、内科医

が1人、麻酔科医が2人です。術後管理は必ず2人体制を敷いています。

首は細くて狭く、手術のリスクが高い箇所ですから、最低でも2人で診るべきだというのが私の考えです。医師たちは長く働いてくれているので、経験を積み、技量もある。チームワークも非常に良いです。欲を言えば、もう少しだけ医師の数に余裕があるとうれしいですね。

患者さんからも信頼を得られるよう、日々努力しています。当院には毎日たくさんのお患者さんがいらっっしゃいますが、受付や技師などのスタッフたちにも、

## 県内屈指の症例数で

## 甲状腺治療の中核となる

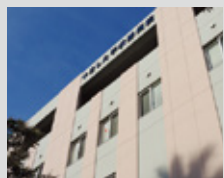
医療法人福甲会

やました甲状腺病院

やました 山下

ひろゆき 弘幸

理事長・院長



医療法人福甲会  
やました甲状腺病院  
福岡市博多区下呉服町1—8  
☎092—281—1300  
<https://www.kojosen.com/>